青が散る　舞台MAP

作品中で描かれているキャンパスの様子を小説「青が散る」本文や開学当時の写真でご紹介します。
本を片手に学内を歩いてみてはいかがですか。

❶ 1号館

執拗に食い下がってくる連中から逃げだして、金子と燎平は、一号館の冷んやりとした小教室に入った。金子は、二時に学長と会うのだと言った。テニスコートを造ってくれるよう談判するつもりだった。
（上 P13）

当時の様子

2009年竣工

❷ 掲示板

燎平は何のあてもなく一号館に戻って行った。食堂への道につながるピロティのところで、並外れた巨体の学生が貼り紙を掲示板に貼りつけていた。髪を短く切って、度の強い眼鏡をかけている。貼り紙には＜硬式テニス部員募集＞と書かれてあった。
「テニス部が出来るのん？」
燎平は、その長身の学生に話しかけていった。
（上 P11）

❸ だらだら坂

バス乗り場と、舗装された長い坂道と、四階建ての一号館と、そこから学生食堂へのぼって行くだらだら坂があるだけで、あとは何もなかった。
（上 P10）

❹ 食堂

「きのう、安斎の家に電話したんや」
と金子は言った。
「一時に、食堂で待ち合わせてるから、燎平も一緒に来てくれよ」
そのとき、ぽつりぽつりと雨が降り始めた。金子は空を見あげ、慌ててプレハブ造りの部室に向かって走った。
（上 P35）

当時の様子

2000年竣工

2009年現在のキャンパスMAP

小高い地形にある本学には、
③⑤のほかに最も長い坂道として※があり、
通称「だらだら坂」と呼ばれることが多い。

❺ 坂道

喋っているうちに、彼は自分がのんきにクラブ活動なんかにうちこめる身分ではないことに気づいていた。アルバイトもしなくてはならない。父の仕事も手伝ってやらなくてはならない。燎平は学生食堂への坂道をのぼった。
（上 P29）

❻ 旧バス乗り場（現 6号館前）

バス乗り場に行くと、夏子は先に来て待っていた。春の陽を受けて、ぱあっと花が咲いたようにはなやかで活き活きした夏子の表情には、一点も下品な部分がなかった。
（上 P18）

⑥-1

⑥-2

[⑥-1] 1号館から撮影した、開学から数年間の旧バス乗り場
[⑥-2] その後、旧バス乗り場は体育館の東側に移り、現在は体育館の南側にある

❼ 旧テニスコート（現 追手門学院中・高等学校体育館）

たった一面のコートを造りあげるのに、ふたりは結局、一ヵ月も時を費やしたことになった。どちらも、まだラケットで一球もボールを打っていないというのに、見事に陽灼けした肌を輝かせていた。
（上 P31）

当時の航空写真。
旧テニスコート（点線部）は、現在の中・高体育館の場所にあった。数年後、現 駐車場の場所に移り、現在は第一グラウンドの東側にある。

移設後のコートでの練習風景

現在のテニスコート

作品に関連する場所

ⓐ 大学創立二十周年記念碑

作品中で登場する初代学長のモデルとなった故・天野利武先生の顕彰碑。
碑文は宮本輝氏が書いている。

ⓑ 将軍山会館

会館内で、坂上楠生画「青が散るによせて」を観賞できる。

※『青が散る』2007年刊文藝春秋（上）（下）より本文を抜粋しています。